

【トピックス 2021/03/11】
2020年度ゼミ指導教員が推薦する卒業研究論文（旧称：卒業研究論文優秀賞）

2020年度卒業生が執筆した卒業研究論文の中から、指導教員の推薦に基づいて論文を選出しました。「卒業研究」は英語英文学科の必修科目で、4年間の学びの集大成となります。選ばれたみなさま、おめでとうございます！

市川ゼミ/澤田陸さん「ロバート・ウェストール『海辺の王国』—戦争を起因とする少年の精神的成長と家族」

○要旨および指導教員からのコメント

澤田君が取り上げたのは宮崎駿が敬愛するイギリス人作家ロバート・ウェストールの名作『海辺の王国』（The Kingdom by the Sea, 1990）です。時代は第二次世界大戦中、空襲によって家族とはぐれてしまった12歳の主人公、ハリーは海岸に沿って放浪の旅を続けます。澤田君の論文の面白さは、その旅の軌跡を当時の地図と現在の地図を対照しながら示したことです。また、家族との再会におけるペースをしっかりと受け止め、分析している点も高く評価できました。

佐川ゼミ/橋井絢香さん「シェイクスピアの作品の中の男性と女性の役割ともたらされる効果について」

○要旨

シェイクスピアの作品では、女性役を少年俳優が演じることによる中性的な雰囲気のもと、神秘的表現が随所にみられるということを作品の詳細な分析から解明した。また当時の劇場は女性たちにとって自由な場であったという社会的事実など複合的要素から人間を描くことに終始した作家像について論じている。

○指導教員からのコメント

シェイクスピアの一つの作品に的を絞って卒業論文を執筆する人が多い中、橋井さんは『ハムレット』、『マクベス』、『ヴェニスの商人』といった複数の作品を取り上げ、登場人物や劇中での役割などを綿密にまとめ上げました。序論にはシェイクスピア劇に見られる作劇技法の記載までなされており、たくさん書物から学び、誠実に書かれた卒業論文として大変好感を持ちました。

塩田ゼミ/久禮田妃美さん『ローン・レンジャー』におけるネイティブ・アメリカンの表象

○要旨

西部劇『ローン・レンジャー』（The Lone Ranger）の1949年のテレビドラマ版（15話分）、1981年公開の映画、2013年公開の映画を比較し、ネイティブ・アメリカン(インディアン)がどのように描かれているかに焦点を当て、それぞれの作品のネイティブ・アメリカンと白人の役割、関係性、時代による変化を分析した。

○指導教員からのコメント

久禮田さんが中学生の頃に映画館で見たという映画『ローン・レンジャー』を出発点に、それぞれ公開された時代が異なる『ローン・レンジャー』を比較して、明確な相違点を見いだしました。映画でのネイティブ・アメリカンの描かれ方と実際のアメリカの歴史をふまえて丁寧に比較した力作です。

塩田ゼミ/横瀬実加さん「『高い城の男』から読み取るアメリカ文化——小説版とテレビドラマ版の比較・研究」

○要旨

アメリカを代表するSF作家であるフィリップ・K・ディックの歴史改変SF小説、『高い城の男』と、Amazonビデオで配信されたドラマ版とを比較して、他の作家による歴史改変SF小説にはない二重構造、すなわち、作品中にもう一つのIF世界が描かれている様子について分析した。

○指導教員からのコメント

フィリップ・K・ディックの他の作品も早い段階で読み始め、長期間にわたって作品に真摯に取り組みました。難解な作品構造を紐解きながら、「もう一つの分岐点」から登場人物の心情や地政学の変化を読み解くことに成功しています。

大澤ゼミ/石田大貴さん「語彙習得を促す英語辞典の活用法—中学校外国語科（英語）の授業実践への示唆—」

○要旨

多くの中学生が紙の辞書を所有しているものの、授業中にはあまり活用されていないように思われる。そこで本研究では紙の辞書に焦点を当て、語彙習得を促す活用法について考察を行なっている。まずは第1言語と第2言語における語彙習得について理論的観点か

ら相違点についてまとめ、その後意図的語彙学習と偶発的語彙学習を取り入れた実際の指導例を概観している。これらの理論と実践を組み合わせたとで、辞書を活用するための具体的な指導案を提案している。

○ 指導教員からのコメント

英語学習において辞書の活用が重要であることは多くの人が認識しているものの、実際にどのように授業内で活用すれば良いかについて語られることは多くありませんでした。石田くんは語彙習得の理論について概観するだけに留まらず、書籍やオンラインで公開されている実際の指導案を分析した上で、理論と実践の融合を目指しています。それだけに留まらず実際に指導案も作成しており、実際に石田くんが教壇に立った時に、指導案に基づいて実践を行い、その効果を検証することが期待されます。

Ronaldゼミ/北谷ダイアンさん International marriages and children: Focus on the children's identities, cultures, and languages

○ 要旨

This thesis reported an investigation of the lives of young people in Japan who have parents from different countries. The study skilfully employed in-depth semi-structured interviews to gain greater understanding of three main aspects of the lives of these young people, labelled "half" in Japan: the languages they use, their experiences of the cultures of their two countries, and their changing appreciation of their identities.

○ 指導教員からのコメント

The two strengths of this ethnographic study are the researcher's personal interest in the topic as a fellow bicultural and bilingual person, and the discoveries through in-depth interviews of participants' shared and differing experiences of growing up with, and through, two different cultural and linguistic identities. The interviews reported through this thesis provide positive, affirmative, and yet authentic accounts of growing up as a "half" in Japan.

Barrsゼミ/三浦歩夢さん A Linguistic Investigation into Keywords in American Presidential Speeches

○ 要旨

This thesis took a corpus linguistics approach to the investigation of commonalities in expressions used in American presidential speeches. The aim was to uncover in what ways the language used in the speeches reflected the societal changes over the post-WWII period of American history.

○ 指導教員からのコメント

The strength of this thesis is in the depth of analysis, and the subsequent presentation of the research findings. A corpus of American speeches was self-built, and then analysed from various angles such as 'keyword analysis' and 'word frequency'. The results of the analysis are very well presented in both textual and graphic form, and the discussion of the data includes many insightful observations and considerations of how the language in the speeches reflects important societal events over post-war American history.